



みずもと あいどう
水本 愛堂 氏

(本名 水本 清)

生年月日 大正 11 年 9 月 17 日生

住 所 西牟婁郡白浜町

大正 11 年 (1922 年) 9 月 17 日、西牟婁郡湊村 (現田辺市湊) において、水本定吉、政枝夫妻の長男として生まれる。

幼少より書を学ばれ、特に中学校 1 年生のとき校内展覧会に入選し、それを機に炭山南木氏に師事し、また池永浩氏 [第 1 回 (昭和 45 年) 田辺市文化賞受賞] の薦めによって詩法を高橋藍川氏に学び、書の道に努力傾注。

昭和 18 年 (1943 年)、大阪専門学校に在学中召集、しかし病のため召集解除となり郷里に帰る。

昭和 20 年 (1945 年) 4 月、田辺高等家政女学校教諭嘱託となり、その後、田辺市立田辺中部中学校教諭、田辺市立東陽中学校教諭など、戦後の混乱期に教職を勤め学校教育の向上、教育行政の発展に貢献をされると共に書道において多くの子弟を指導育成した。

昭和 39 年 (1964 年) 3 月、大阪府寝屋川市に転住し、同 59 年 (1984 年) 11 月、現住所の白浜町に帰棲する。

氏は、昭和 24 年 (1949 年) 3 月、文部省検定試験書道科に合格し、同年 10 月に日展初入選以来現在まで日本書芸院展文部大臣賞受賞のほか数多くの賞を受賞されている。

昭和 24 年 (1949 年) 4 月、氏は書道研究青童社を創設、今日まで子弟の指導育成に多大の尽力をされると共に自らも日々研さんを続けられており、少壮時より書壇で活躍されている氏の生きざまは名利を追わず淡々とした脱俗の境地に打坐し、ただ一途、書道に精魂を傾け志向の高さを求める書家であり、今日まで古典によって書技を深められながら、水本流ともいふべき高雅な書風を確立し、その実力は広く書壇に知られ、その熱意と書道に魅せられ師事仰ぐ者が多い。

毎日書道展、また、田辺市展の初期からの審査員として尽力されると共に多くの書展の審査員として活躍され、当地方の書道の振興、向上に尽くされた功績は極めて大きなものがある。

第 19 回 (昭和 63 年)

(略 歴)

昭和 20 年 (1945 年) 3 月 大阪専門学校卒業
昭和 20 年 (1945 年) 4 月 田辺高等家政女学校教諭嘱託
昭和 22 年 (1947 年) 4 月 田辺市立田辺中部中学校教諭
昭和 24 年 (1949 年) 4 月 田辺市立東陽中学校教諭
昭和 29 年 (1954 年) 4 月 和歌山県立田辺高等学校定時制講師兼任嘱託
昭和 31 年 (1956 年) 3 月 田辺市立東陽中学校依願退職
昭和 39 年 (1964 年) 3 月 大阪府寝屋川市に転住
昭和 45 年 (1970 年) 9 月 私立聖母女学院講師
昭和 51 年 (1976 年) 3 月 私立聖母女学院退職
昭和 59 年 (1984 年) 11 月 西牟婁郡白浜町堅田に帰棲

昭和 24 年 (1949 年) 3 月 文部省検定試験書道科に合格
その他 書道研究青童社主宰
田辺市展審査員
毎日書道展審査員
日本書芸院展審査員
関西展審査員
日展会友

(受賞歴)

昭和 24 年 (1949 年) 10 月 日展初入選
昭和 25 年 (1950 年) 2 月 日本書芸院展文部大臣賞受賞
昭和 26 年 (1951 年) 3 月 関西総合美術展関展賞第一席
昭和 26 年 (1951 年) 8 月 毎日書道展毎日賞第一席
昭和 41 年 (1966 年) 8 月 東京タイムズ書道展東京タイムズ大賞